

校内研修計画

甲州市立大藤小学校

1. 学校課題

大藤地区は、緑が豊かで、桃やすももなどの果樹栽培を中心としている地域である。本校の児童は89名。全学年1クラスであり、どの学年も20名未満の小規模校で、年々児童数は減少している。大規模校と比べると個人指導がいき届きやすく、また子ども同士は集団の中での関わり合いが深い。その一方、少人数であるが故に、一緒に過ごす時間が長くなることで、あえて言葉にしなくても意志の疎通ができる環境があるように感じる。正しい表現方法で自分の意志を伝えたり、言葉や文章を読み取ったりすることが、やや苦手な傾向があるように見られる。

各学級における児童の実態については、「集中して聞いたり、考えたりすることが苦手」「自分の考えがもてない」「文章を読んで理解し、表現していく力が乏しい」「自分の考えを自分の言葉でなかなか表現できない」「友だちの考えを聞いて、自分の考えに取り入れる力が不十分である」などの課題が挙げられている。

2. 研究主題

「自ら考え、課題を解決できる児童の育成」

～思考力・判断力・表現力を高める指導を通して～

3. 主題設定の理由

(1) 学校教育目標具現化の立場から

本校の学校教育目標は『自ら考え、正しく判断し、行動する児童の育成』である。具体目標として「自ら考えて学習する子ども」「健康で明るい子ども」「思いやりの心をもつ子ども」「協力しやりぬく子ども」「郷土を愛する子ども」が掲げられている。「知・徳・体」の調和がとれた人間性豊かな児童の育成を具現化するために、「知」においては基礎的・基本的な学力の定着とともに自分なりに知識を活用し、自ら考えて判断したり、表現したりできる児童の育成が大切であると考え。そうした力をつけることでいずれは教育活動全体に渡って「自ら考え、正しく判断し、行動する児童育まれるのではないか。」と考えこの主題を設定した。

(2) 今日の課題から

昨年度より新学習指導要領が本格実施となった。新学習指導要領の基本的な考えの一つに、「生きる力」が挙げられている。また、「生きる力」の知の側面として、「確かな学力」がこれからの子どもたちに求められている。「確かな学力」の中には、基礎的・基本的な知識・技能の習得は勿論、知識・技能を活用して課題を解決するのに必要な思考力・判断力・表現力等も一つの大事な要素とされている。知識を蓄えるだけでなく、その蓄えられた知識を活用し、自分なりに考えて課題を解決したり、自分の考えを表現したりする力をつけることが必要となってくる。自分なりに考え、相手のよいところを自分の中に取り入れつつ、自分の思いを表現できる力を育てていくことが大切である。

(3) 昨年度の研究から

本校は、平成22年度から「自ら考え、課題を解決できる児童の育成～思考力・判断力・表現力を高める指導を通して～」をテーマに研究を進めてきた。今年度は、その3年目の継続研究に入る。昨年度は、思考力や表現力を支える言語環境を日常的な取り組みとして継続しつつ、教科は算数科に統一して研究を進めた。思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善の手だてとして、問題解決型の過程をとり、多くの成果があった。しかし、自分の考えがもてない・考えを表現することが苦手・わかるように伝える力が必要・友だちの考えを取り入れる力が不十分など、いくつかの課題点も出された。また、児童への学習アンケート結果からは、自分の考えを友だちに話すことや、わかりやすく説明することに関しては、全校的に意識の向上が見られるが、数値としてはまだ不十分であることがわかった。

以上のことから今年度は、昨年度の研究によってあげられた成果を継続しつつ、学び合うことや表現する活動に焦点を当て、あらゆる場面においてそれらの力が身に付いていくよう、教科の枠を広げて研究を深めていくこととした。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ・理論研究（思考力・判断力・表現力について）
- ・授業実践および授業公開の実施
- ・言語活動充実のための日常的な取り組み
- ・一人一実践の取り組み
- ・児童の実態把握

(2) 研究方法

- ・全職員の共通理解を図るために、全体研究会を中心に研究を行う。
- ・講師を招いて、テーマに基づく理論研究を行う。
- ・授業研究をし、授業公開を行っていく。
- ・児童の思考力・判断力・表現力に関わる調査で児童の実態や変容を把握する。

5. 年間校内研修計画

回	月 / 日	形態	主 な 内 容	担当	TC 要請
1	4 / 4	全	昨年度の研究について，今年度の方向性	金井	
2	4 / 11	全	学校課題，研究主題，研究内容・方法について 年間計画の提案	金井	
3	4 / 17	全	学校課題，研究主題，研究内容・方法 年間計画の決定	金井	
4	5 / 9	全	継続的な取り組み・つきたい力について 学習における実態調査について	金井	
5	5 / 23	全	学習における実態調査より 授業内容の選定・実施時期について	金井	
6	6 / 6	全	授業内容・授業授業案形式の確認	金井	
7	6 / 27	全	理論研究（思考力・判断力・表現力向上のための 指導の工夫について）	金井	
8	7 / 6	全	理論研究（つきたい力に関わる指導の工夫	金井	
9	7 / 11	全	理論研究（学び合い活動・表現活動について）	金井	
10	8 / 22	全	教育課程の還流報告 Q - Uの結果より	金井	
11	9 / 5	全・個	授業案作成	金井	
12	9 / 12	全・個	授業案作成	金井	
13	10 / 3	全	授業案検討	金井・授業者	
14	10 / 10	全・個	授業案・教材作成	金井	
15	10 / 17	全	授業案検討	金井・授業者	
16	10 / 24	全	研究授業	授業者	
17	10 / 31	全	授業の反省 授業案検討	金井 授業者	
18	11 / 7	全	授業案検討	金井・授業者	
19	11 / 21	全	研究授業	授業者	
20	1 / 9	全	研究授業の反省とまとめ	金井	
21	1 / 30	全	研究紀要作成について	金井	
22	2 / 20	全	研究の成果と課題	金井	
23	2 / 27	全	研究のまとめ	金井	
24	3 / 6	全	研究紀要作成	金井	

